

「二尺玉」の枝肉成績等

「二尺玉」号の産子 26 頭を畜産試験場、上場営農センター及び県内の肥育農家で肥育して枝肉重量や肉質を調査したところ、去勢産子 12 頭においては、ロース芯面積と歩留まり基準値の 2 形質、雌産子 14 頭においては、枝肉 6 形質全てにおいて、これまでの県産種雄牛の中で歴代最高の評価を記録しました。

表 1 枝肉成績

性別	種雄牛	頭数	枝肉形質					
			枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	バラの 厚さ (cm)	皮下脂 肪厚 (cm)	歩留まり 基準値	BMS No.
去勢	二尺玉	12	518.5	79.0	8.1	2.2	76.7	10.1
	県産素牛平均	1,974	513.4	71.0	8.1	2.1	75.5	9.2
雌	二尺玉	14	532.0	92.4	9.4	2.6	78.7	11.3
	県産素牛平均	1,525	461.4	69.0	7.7	2.6	75.3	8.7

※1 黄色塗は、これまで県産種雄牛の中で歴代 1 位を記録した数値。

※2 県産素牛平均は R6 年度の数値



出荷者：畜産試験場
性別：雌
格付：A 5
枝肉重量：539.7 kg
ロース芯面積：112 cm²
BMS：12
血統：二尺玉-美国桜-安福久

写真：「二尺玉」号産子の枝肉断面

【用語の説明】

1. 種雄牛とは、肉量や肉質など優れた産肉能力を持つ雄牛のこと。和牛の育種改良に重要な役割を果たしており、精液を採取・凍結して、人工授精に使われる。
2. 佐賀県和牛改良検討会とは、本県和牛の改良方向を協議する会議であり、学識経験者や農業団体、農家代表者、県等で構成される。
3. ゲノム育種価とは、個体から子へ確実に伝えることのできる遺伝的能力を DNA 情報等から数値化する方法である。
4. 枝肉重量とは、牛の生体を解体処理する際に頭や皮、内臓などを取り除いた枝肉の重量で、黒毛和牛の場合一頭分で約 400～600 kg で、大きい方が望ましい。
5. ロース芯面積とは、枝肉にした時のロースの部分の大きさで、大きい方が望ましい。
6. バラの厚さとは、枝肉にした時のバラの厚さ。カルビ等になり大きい方が望ましい。
7. 皮下脂肪厚とは、枝肉にした時の皮下脂肪の厚さで、薄い方が望ましい。
8. 歩留まり基準値とは、枝肉から取れる部分肉重量の割合予測値のこと。この値により A、B、C の 3 段階に分けられ、歩留基準値 72 以上を A 等級、69 以上 72 未満を B 等級、69 未満を C 等級と示す。
9. BMS No. とは、肉質の評価で重要とされる指標。霜降りの度合いにより、BMS 値 (Beef Marbling Standard) で 12 段階に区分される (下図参照)。

肉質等級	5					4			3	2	1	
脂肪交雑 BMS値	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ブランド区分	佐賀牛						佐賀産和牛					

※図：J AさがHPより抜粋